

図書館では、西東京市誕生十周年記念式典に合わせ、資料展「西東京市誕生十周年を祝う郷土のあゆみ」を開催します。この資料展で公開予定の検地帳について紹介します。

修復された田無村検地帳

西東京市文化財保護審議会委員

近辻 喜一

西東京市図書館では、西東京市振興基金により、所蔵する歴史的資料を三年間にわたり修復してきましたが、そのうち元禄三年田無村検地帳を中心に紹介します。

検地(けんち)とは、領主が農民の田畑一筆ごとに水縄などを用いて測量し、反別・品位・石高・名請百姓を定めること。その結果を記録した土地台帳が「検地帳」です。

元禄三年(一六九〇)ころの田無村には領主が三人いました。農民はどれかの領主に属し、それぞれの名主を通し年貢を納めます。九年後に田無村すべてが代官支配地になってからは、天領(幕領)の村でした。

昭和五十年代に市役所の倉庫から一群の書類が出てきました。鼠にカジられ、開くことも出来ませんが、一冊だけ状態の良いものがありました。表紙に「元禄三年庚午九月／武蔵国多摩郡田無村屋敷御検地水帳／七冊之内」とあります。



さつそく修復してみると、この簿冊は幕領の検地帳で、村方へ下げ渡された正本の第七冊目、屋敷分および全体の総計「寄(よせ)の部分とわかりました。七冊のうち最も重要な最終冊がほぼ完型にもどり、市指定文化財になりました(写真)。

今回の修復は、残る六冊の復原が目的でしたが、なぜか十五冊に増えています。元禄の検地帳正本以外に、明治五年(一八七二)作成の副本、宝永六年(一七〇九)分郷の柳久保村(現東久留米市)検地帳、元文元年(一七三六)田無村新田検地帳などが含まれていたからです。

別表は、副本作成時につけられた仮地番の順に、修復済みの正本につ

いて、その表題を一覧したものです。欠損が甚だしいものの、元禄検地帳七冊は一応そろいました。表の二か所で地番が飛ぶが、無反別分(田中領)と寛文十年(一六七〇)の蜂屋領検地帳四冊が入り、田無村新田三郎兵衛組がうしろに来るのでしょう。

その意味で、昨年度の寛文検地帳の修復作業に注目しましたが、期待通りの修復結果とならなかったことはまことに残念でした。

一方、この検地帳修復事業によって、すべての検地帳の内容を復原する方法が見つかりました。中央図書館所蔵の田無村役場文書「田畑其外直段書上帳」は、この副本をもとに地価額を算定した、地券交付用名寄帳(控)だったのです。

地域・行政資料室のレファレンスサービス

西東京市中央図書館二階にある地域・行政資料室は、地域に関する様々

元禄三年田無村検地帳の修復状況

#	仮地番	表紙題字
1	253~278	柳久保村畑方／弍冊之内「弍」
2	279~284	柳久保村山
3	285~365	田無村屋舗／七冊之内*
4	366~668	田無村畑方／七冊之内
5	669~1102	田無村新口**
6	1103~1430	田無村畑方／七冊之内
7	1431~1873	田無村畑方／七冊之内
8	1874~2223	田無村草野／七冊之内
9	2224~2271	田無村畑方／七冊之内
10	3299~3488	田無村新田／半兵衛組「十二」

(注)「」は朱後筆、*指定文化財、**副本。

な資料を集めて保存、提供しています。

この部屋は、平成八年(一九九六)、当時の田無市社会教育部社会教育課が管理をしていた田無市史編さん資料を図書館へ移管して公開してほしいという要望が出されたことをきっかけに、併せて図書館が開館以来収集していた資料を公開する目的で開室しました。

保存資料のため、専用の閲覧室でご利用いただけます。

ここを中心とするのは、質問、相談にお答えする「レファレンスサービス」という業務です。来館あるいは、電話による市民からの質問、イ

インターネットを利用した市外在住者からのWebレファレンス、西東京市役所職員からの問い合わせなど様々なケースがあります。平成二十一年度実績で、二一〇〇件の問い合わせをいただきました。

よく寄せられる質問

その事例を少しご紹介します。

多く寄せられる質問は、田無、保谷、谷戸、芝久保、柳沢、ひばりが丘などの地名が何に由来するののかというものです。『田無市史』『保谷市史』『多摩の歴史』や地名辞典等の基本資料だけで補えないケースが多く、『保谷の地名関係資料』『たなし郷土かるた付録解説文集』『郷土史講座の記録』など地域の研究者が書かれた記録が大きな助けとなります。

次に、地域の戦争記録、特に軍需工場として存在した中島飛行機に関連する質問もよく寄せられます。かつて図書館が実施した事業「戦争を伝える」における座談会記録集である『中島飛行機武蔵製作所と田無』と『中島航空金属と田無』や聞き取り調査や市民の体験記録である『田無の戦災誌』、『保谷の被曝記』、『なつくさ一号く十号』などから多くの回答が得られます。また、昭和二十年代の航空写真からも空襲による爆撃跡などの戦争のつめ跡をうかがうことができます。

土地の履歴(そこに何があったか、

どう変化したか等)については、課題学習で調べに来た小・中学生、市内への転入を考える方、土地の開発にかかわる方などから多くの問い合わせをいただきます。絵図、地形図、住宅地図、航空写真などの資料から過去の情報を提供します。市内各図書館に備える『明治前期・昭和前期東京都市地図(全四巻)』は時代を追って変化が見える便利な一冊です。

子ども地域資料

図書館では、質問の多い事柄を小学生でもわかるようにまとめた冊子を作っています。子ども地域資料『田無いま・むかし』、『ホウホウほうや』、『にんにん西東京』です。

『田無いま・むかし』は、まだ『田無市史』ができる前の平成元年に、宿題を解決しようと訪ねて来る多くの小学生たちに向けて作り始めました。平成十三年発行の十号まであり、今でも利用されています。

Webレファレンス

地域・行政資料に関するWebレファレンスは全国どこからでも受け付けています。

北海道釧路市在住の方からの事例をご紹介します。質問は、旧田無の出身である先祖に関するものでした。田無、練馬、北海道と移住されたその先祖の名が、当市の市史編さん資料の検索で見つかった

ため資料の複写サービスをご希望でした。さらに、旧家であるその家の歴史がわかる資料を紹介してほしいとのことでした。家系調査は図書館の仕事ではありませんが、地域資料で解決できる質問ではないかと考え、市史編さん資料や『田無地方史研究会紀要』『ブルーマップ西東京市』『ゼンリン住宅地図』『ハローページ』など新旧の資料から手がかりを得て依頼者へ回答しました。

情報の共有

回答する際は、図書はもちろんのこと、地図、写真、新聞記事、ポ



「大絵図」(明治9年12月)の一部、上保谷地域の富士街道南域、現在の富士町、柳沢、東伏見の部分

スター、チラシなど図書館で収集しているあらゆる地域・行政資料を活用します。

こうしたレファレンス事例は個人情報など考慮した上でホームページでも紹介しています。質問の多い事柄からテーマを選び、参考文献から得た回答をわかりやすい言葉で書くことによって、市民の問題解決を支援したいと考えています。また、地域に関する質問を公開することで、地元の方はもちろん遠方の方にも西東京市情報を提供することができます。

図書館資料展

「西東京市誕生10周年を祝う郷土のあゆみ」

期日 3月5日(土)・6日(日)

場所 保谷こもれびホール・小ホール

公開に十分なスペースが必要な「地租改正絵図」や「大絵図」、修復したことによりページを開き解読することができるようになった「検地帳」、新聞や折り込み広告など、普段は図書館でご案内する機会が少ない資料を一堂に公開します。「なつかしの田無・保谷」写真パネルや航空写真なども展示する予定です。「なつかしの田無・保谷」写真パネル図録「西東京市誕生10周年記念」の頒布も行います。